

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	6107 現代美術史基礎			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	金曜3限				
教室	J102教室				
代表教員	野々村 文宏				
担当教員	野々村 文宏				
テーマと到達目標	現代美術を志す人へ。現代美術は、ただ、見たものをありのままに描こうとする類いのものではない。(上級生は、わかっているはず。)過去の歴史の中でなにが議論され、その結果、どんな手法や作品が生まれたかを理解する必要がある。雑誌などのグラフィックデザイナーを目指す人、展覧会やアートイベントに興味のある人も必須の授業。1、2年生のうちに受講しておいて欲しい。				
概要	抽象表現主義、ミニマリズム、コンセプチュアル・アートなど、毎回、ある時代の潮流に光を当てながら、同時にその潮流を支えた代表的な理論や論文を紹介する。講義を全回聞けば、きみにも即座に現代美術のマトリクスが見えてくるだろう。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション。シラバスをよく読み込んで履修するかどうかを決める。				対面授業
第2回	デュシャンから始まる。1917年リチャード・マット『泉』、『階段を降りる裸体No.2』				対面授業
第3回	「平面性」クレメント・グリーンバーグ。1950年代、J.ポロックとアメリカ抽象表現主義				対面授業
第4回	コーリン・ロウの指摘する二つの透明性。1963年。コルビュジェからポストモダニズムへ				対面授業
第5回	芸術の終焉? 1960年代。アンディ・ウォーホル。アーサー・ダントーとポップアート				対面授業
第6回	ソシール言語学とコンセプチュアル・アート。コースス『一つの椅子と三つの椅子』				対面授業
第7回	ミニマリズム。ドナルド・ジャッド。マイケル・フリード『芸術と客体性』				対面授業
第8回	レオ・スタインバーグ1968年『別の評価基準』。ラウシェンバーグ「フラットベッド」				対面授業
第9回	ロザリンド・クラウス1979年『展開された場における彫刻』。アースワークス。				対面授業
第10回	美術館と写真。複製芸術。ダグラス・クリンプ『美術館の廃墟にて』				対面授業
第11回	家長父長制への異議申し立て。グリゼルダ・ポロック『視線と差異』フェミニズム的転回				対面授業
第12回	ソクタグ『隠喩としての病い AIDSとその隠喩』、疾病と依存とアクティビズム				対面授業
第13回	シミュレーションニズム。ハル・フォスター『リアルなものへの回帰』。				対面授業
第14回	インターネット以降の現代美術。ハル・フォスター『アーカイブの衝動』。				対面授業
第15回	ニコラ・ブリオー『関係性の美学』、ソーシャル・エンゲージド・アートとは?				対面授業
成績評価の基準	授業の前後に積極的な参加と発言を期待する。欠席は原則、3回までとする。最後に、授業で紹介した有名なアーティストからあなたの「ベスト5」を選び、その特徴を選んだ理由を合計2000字以上で書く。				
履修にあたっての留意事項	※リモート授業に移行するときは、配信による同時双方向型授業(zoomと和光ポータルとの併用)となる。第一回オリエンテーションぶんの自宅課題学習は、その後の授業中に指示する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

## ◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	範囲が広いため、これ一冊というものが無い。全回通じて使える教科書は無いので、必要に応じて資料を和光ポータルで配る。授業の内容を自分なりにノートに書き止めることも大事。	教科書(ISBN)	
参考文献	多数。随時、参照・紹介する。	参考文献(ISBN)	